

日時 平成30年5月18日（金）

午後1時30分～3時

会場 市役所本庁舎3階第10会議室

■出席（18名）

神谷明文会長、大見博昭副会長、柴田綾乃委員、細井治子委員、喜邑友宣委員、執行紀美代委員、岩瀬せつ子委員、塚本有子委員、塩之谷真弓委員、都築光男委員、小野真奈美委員、土肥由美委員（代理）、鈴木靖子委員、重田一春委員、小松千鶴子委員、市川彩委員、木内正範委員

助言者：勅使千鶴教授

■欠席（3名）

成島清美委員、榊原守委員、杉浦泰治委員

■次第

- 1 委嘱状交付
- 2 会長あいさつ
- 3 議題

議題1 保育園・幼稚園の運営方針について（資料1、2）

■議事録

議題1 保育園・幼稚園の運営方針について（資料1、2）

資料1、2に基づいて事務局から説明

（神谷会長）

私から一つ質問させていただきます。幼児教育無償化というのは消費税を上げたら実現するという話でしょうか。

（事務局）

報道によりますと、消費税の引き上げに伴って実施するという公約になっておりますので、現在検討をされているところです。

（神谷会長）

ご意見、ご質問がございましたらどうぞ。

（市川委員）

率直な第一印象としてこんなに必要なのかと感じました。その理由として、子ども全体の量は年齢を問わず減ってくるだろうという中で、0歳児（低年齢児）が増えることは、入る中でのことなので、さらにこれだけ増やすと他でも人が欲しいというところが出てくるのではないかと思います。また、安城市は、安城幼稚園とさくの幼稚園を3歳児から5歳児を対象として認定こども園にして、低年齢児は民間に任せると考えているということでしょうか。

(事務局)

安城幼稚園を認定こども園にして3歳児から5歳児を集約するというのはお見込みの通りです。低年齢児につきましては、もともと幼児の施設である安城幼稚園を低年齢児が受けられるように施設改修すると費用がかかってしまいます。(仮称)安城こども園に地域の3歳児から5歳児を集約することで、同じ地区にある錦保育園の空きが見込まれるため、そこを低年齢児の受け皿にと考えています。

(神谷会長)

今のご質問はそれだけのニーズがあるのかという意味も含まれているかと思います。女性の社会進出によって子どもを預けて働く女性が増えていくであろう、ということかと思いますが、その予測はどのような数字に基づいて算出しているのでしょうか。

(事務局)

資料2の13ページ、(参考)保育所利用児童数と利用率のグラフをご覧ください。上のグラフが国、下のグラフが安城市、右側のグラフが予測値です。青色の折れ線がその年代の1,2歳児の人口に対してどれだけの割合が保育園に通っているかという入園率です。安城市の2017年時点の1,2歳児は31.2%が通っていることがわかります。一方、国では既に45.7%の1,2歳児が利用しています。数年後に安城市も国と同じ推移が見込まれていることが予測値からわかります。安城市の1,2歳児の利用率は33.0%で始まり、10年後には49.2%まで、低年齢児の利用率が上がってくるという見込みから、中学校区で過不足が出てくるという見込みです。

(岩瀬委員)

市川委員が言ったように、実際に子どもがダブってくるというのは事実だと思います。私立幼稚園の定員割れは顕著に出ています。さらに顕著なのは公立の幼稚園だと思います。子どもが行くところがたくさんあるため、総合園を作るのではなく、足りていない0歳児から2歳児をつくるべきだと思います。公立の園児数が3割減という状況の中、私立幼稚園は爪に火を灯す勢いでやっています。資料2の5ページ、幼稚園・保育園の入園児童数の推移【3-5歳児】のグラフを見ると、今まで私立幼稚園が安城市の子どもたちの面倒を全面的に見てきたことがわかります。安城市が民間に頼って子どもたちの教育を行ってきたのではないかと感じます。そのような中、公立幼稚園の定員が割れたからすべて保育園に移行しましょう、民間で総合園をつくりましょうという話に、私立幼稚園に関して触れられていないことは、公立のことしか考えていないのではと思ってしまいます。0歳児から2歳児が足りないのであれば、その受け皿をつくっていただきたい。3歳児から5歳児に関しては、民間認可保育園の誘致を進めます、公立幼稚園の認定こども園移行を検討します、という対応策の中に私立幼稚園を参画させていただけたらと思います。実際にあふれている状況があるというのは確かだと思います。

また、民営化の必要性を検討という点につきまして、グラフからも私立が努力していることがわかります。公立の教育が決して悪いというわけではないですが、これだけの差が出ているということから、安城市の民間のノウハウは相当あると思います。そのため、民間移換をしていただいた場合には、公立幼稚園に対してもメリットがあると思います。

さらに、読売新聞にありました消費税増税に伴い幼稚園の預かり保育の無償化が実現すれば、幼稚園でも6時半でも7時でも預かることが出来ます。保育園と同じ預かりが幼稚園にできるようになるかと思いますが、現在は預かり保育に対する補助金がありませんが、市内の幼稚園がお母さんたちの負担を考え、ボランティアという形で預かりの時間を延長しています。もし無償化という形で認められた場合には保護者にもメリットがあり、幼稚園側も自信を持って預かりが出来ると思います。私はぜひ公立と

私立がしっかりと手を結んで安城市の子どもたちのために、よりよい環境をつくっていきたいです。そのことを皆様にも考えていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(勅使教授)

安城市として、量と質の両方をよりよくしていきたいと思います。これは安城市だけではなくて、今日の日本でいえることですが保育園は、公立も民間も行政で行います。補助金の関係はあるものの、私立幼稚園の細かい数値は市が把握できていないというのが実態です。そのような状態の中で、私立のデータも公立園のデータのように一括して市が把握することが出来れば、傾向や対策を考えやすくなると思います。公立の保育園、民間の保育園、公立の幼稚園が同じ数値をすぐ、安城市が入手することができて、一緒にやっつけていけるかどうか、そこがカギではないかと思っております。岩瀬委員はどのようにお考えでしょうか。

(岩瀬委員)

例えばどういう数値でしょうか。

(勅使教授)

例えば子どもの数は出てくるにしても、定員との関係や各年齢でどうなってるかという数値です。それが分かれば、学区ごとで私立の幼稚園も入れてこの表がつかることができ、市としてもどのような動向であるかを把握することができると思います。今のような形で担当が違くと、安城だけでなく、全国の自治体で、そちらまで入り込めないというのが実情です。

(岩瀬委員)

私立幼稚園の園児数の推移ということで、想像する域になりますが、3歳児から5歳児がどれくらい幼稚園で面倒を見させていただけるのか。預かり保育が無料になった場合には、例えば2号認定というような長い時間お預かりする子どもたちも保育園の3歳児から5歳児と同じような形で受け入れをし、子どもたちを確保することができれば、0歳児から2歳児を民間保育園と公立保育園に通っていただいて、その後を私立の幼稚園で受けるという数が明確になれば総合園をつくる可能性を減らすことができるとは思いますでしょうか。

(事務局)

この運営方針をつくるに当たり、各中学校区を基礎として、定員の過不足を洗い出し、それを解消しようとしております。可能であれば、お住まいの地域内の小学校にそのまま上がっていき、接続できるような環境を提供したいという意図がございます。小学校区ですと規模が小さくなり過ぎてしまいますので、中学校区単位で試算をしたところです。同じ地域で育っていく上で兄弟入所ということを考えると、低年齢児の園だけでなく、総合園でご兄弟も一緒に通える環境が望ましいのではないかと考えています。

(岩瀬委員)

そうすると、安城幼稚園と錦保育園を一つ園ではないにもかかわらず兄弟は違うところに行くということになったら今の論理と矛盾していませんか。今足りないのは0歳児から2歳児ですから、それをつくる必要があるかと思えます。

総合園を民間でつくと民間がすごくお金を出すわけですが、半分は国から補助金が出るかもしれませんが、4分の1は安城市が税金を出さなければなりません。それを少なくするためにはつくりたくないほうがいいと思いますので、ぜひとも私立にやらせていただけるような場があればと思います。

今後10年は増えるとおっしゃいますが、公立が認定こども園をつくり、皆が公立に行った結果、民

間は子どもが減ったときに、はしごを外れされると困ると思いますが、そのあたりどのように考えていますか。

(事務局)

まず、認定こども園について、認定こども園へ移行した後の錦保育園は3歳児から5歳児のクラスを無くすのではなく、一定のクラス数は確保し、兄弟入所等に配慮していくことを考えております。なお、中学校区では同じ南中のエリア内に入るということも申し添えておきます。

続いて、3歳児から5歳児が余るということについて、保育ニーズの高まりにより、特に今年は3歳児の入園が希望どおりにご案内できないことがあり、総合園の3歳児の部分については今のところ量的な不足が生じているということを実感しています。また、将来にわたって人口が減っていくため、当然定員に余裕が出ることを懸念しております。将来的に安城市内の250人を超えるような大規模な園を縮小していくことも大きな課題の1つだと考えております。

(岩瀬委員)

定員を減らすということは非常に難しいことですので、安城市は本当に定員を減らしていただけるのかと心配です。

(勅使先生)

先ほど、岩瀬委員は0歳児から2歳児だけを別のところにつくればよいということに加え、財政のこととも言われましたが、私立の幼稚園が3歳児から5歳児をみていくということと、今のご提案を併せたとき、どういう形だとよりよいとお考えですか。

(岩瀬委員)

民間の保育園も、足りない0歳児から2歳児を主体的に見ていると思います。市も0歳児から2歳児の部屋があるならば、使われてもいいのではと思います。民間が補助金を国から半分、4分の1を市からもらえたとしても、4分の1は民間の持ち出しがありますが、民間の保育園を増やすことに関しては、やぶさかではないと思います。

とにかく足りないのは0歳児から2歳児ですのでそこを増やしますが、0歳児から2歳児も大きくなるので、3歳児から5歳児になったときに私立幼稚園に受けてもらえるように市とうまく連動していけばその道はあるのではないかと思います。

私見でございますが、3歳児から5歳児に関して、恐らく保育園でも同じであると思いますが、私の幼稚園を見ておりますと、私立の教育・保育方針を気に入って、随分遠くからきてくださる方もいます。私立幼稚園はノウハウを持っておりますので、民間移管等を進める中で、決してすべての私立幼稚園が手を挙げなくても3歳児から5歳児の受け皿があるのではないかと思います。

(神谷会長)

他にご意見、ご質問がございましたらどうぞ。

(喜邑委員)

私はこの0歳児から2歳児を増やす施策は良いと思っています。私の子どもが安城幼稚園に通っていますが、教室が一つ空いています。公立なので保育料が安いことが、安城幼稚園を選んだ大きな理由です。下の子は保育園に行きたかったのですが、条件的に厳しく行っておりません。私立の幼稚園の方が色々やっていただけたところもありますので、行けるならば行きたいのですが、家庭の財政的な部分や、保育園の入園条件などもありますので、公立幼稚園という選択をされる方は多いと思います。私立の幼稚園・保育園もあっていいのですが、やはり無償化になってない現時点において、私立幼稚園に行きた

くても行かせられない家庭もあり、公立しか選択肢がない家庭も多いということを分かっていたきたいと思います。

質問ですが、認定こども園というのは、幼稚園や保育園と何が違いますか。

(事務局)

保育園と幼稚園の機能が合わさったもので、長時間保育をしてもらう人や、幼稚園と同じような時間で帰る人が混在するイメージです。

(喜邑委員)

安城幼稚園で来年から認定こども園になることを知ってるのは、恐らく一部の先生と私だけだと思います。突然、来年から認定こども園に移行されると言われると驚く方もいるし、私みたいに認定こども園を知らない方も大勢いると思いますので、情報開示を早くして欲しいと思います。

また、認定こども園になると幼稚園の先生の場合は、幼稚園教諭 1 種 2 種、保育園だと保育士資格が必要かと思いますが認定こども園になるとどうなりますか。

さらに、今まで幼稚園の子どもの受け入れ時間は 14 時頃までですが、それを延ばしてそのまま職員の方が対応することになった場合、給与面等がどうなるのかという心配があります。

そして、認定こども園になり入園希望が増えた結果、入れなかった子が出たときはどうするのでしょうか。

(事務局)

まず、認定こども園に移行することについてのご案内ですが、現在は周知や方針を決めている状態です。今後は丁寧な説明が必要であると認識しております。

また、教員・保育士資格については、認定こども園は両方の資格を持っている方が勤めることとなります。現在、公立保育園に勤務している方のほとんどが両方の資格を持っているので、ご心配ありません。

最後に、給与面については、時間が長くなることから、今勤めている人が全てには対応できないので、延長等に対応できる保育士等を雇うことを考えております。

(神谷会長)

他にご意見、ご質問がございましたらどうぞ。

(木内委員)

民間認可保育園の誘致の促進や公立幼稚園の認定こども園の移行について考える上で、子どもの増減や、年齢別の人数などの統計的なことは基礎資料として必要ですし、併せて、定員割れなどの現状把握も進めていかれると思います。私立・公立の園が受け皿として、それぞれ保護者のニーズに応えるという対応策は必要だと思います。また、0 歳児から 2 歳児が不足していることは大切な課題だと考えます。私立の認可幼稚園・保育園についても、ニーズがあり把握が必要です。

量的な拡充について討論していただきましたが、箱だけの議論もどうかと思いますので、次回の 7 月の会議では、質的な向上についても提起していただき、併せて検討していただきたいと思います。

質問ですが、資料 1 の 14 ページの下から 9 行目に、「認定こども園とは、教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育園の両方の良さを併せ持つ施設とされている。」とありますが、認定こども園のシステムが、子どもにとってどのようなメリットがあるか教えてください。

(事務局)

本来であれば保育の質についてもお話できればよいのですが、喫緊の課題が受け皿についてなので、

冒頭申し上げたように、この運営方針ではその部分を取り上げていることをご理解いただきたいです。

子どもにとっての認定こども園のメリットについては、様々な文献に書いてありますが、施設に多様な子どもがいることが挙げられます。保護者にとっては、就労の有無に関わらず、小学校に入学するまでその園にいられるということがあります。

木内委員がおっしゃるとおり、保育の質の中身も大切であると思いますが、それは今後の課題として検討していきたいと思っております。

(木内委員)

保護者負担についてはどうでしょうか。

(事務局)

安城市の場合だと、幼稚園児を1号認定、保育園に通う3歳児から5歳児を2号認定、0歳児から2歳児を3号認定と位置付けています。1号認定の料金は、保育園の2号認定の料金をベースに算定しています。保育園を8時間として換算したとき、同じ時間、その同じ施設にいることを想定し、8分の6時間で計算すると、現在の公立幼稚園の料金より若干上がることになります。

(神谷会長)

女性の社会進出の中で、人口減少はしても子どもの保育ニーズは増えるであろうというところで、数字的に10年後どうなるかは、市も明確に出しにくいですね。

しかし、1つ言えることは、岩瀬委員がおっしゃったように、公の施策が民間の圧迫になったのでは元も子もないので、そうならないよう常に配慮していただきたいと思えます。

また、民間保育園の誘致を進めることは、現在保育園のニーズが足りないという認識があるわけですね。そこが、岩瀬委員や市川委員との認識が違うようにお見受けしたのですが市はどう考えてますか。

(事務局)

安城市の施策として、待機児童を出さないように、可能な範囲で、保育士を雇って何とか児童を入れることに終始専念していますが、昨年10月に待機児童が出ました。毎年100~200人ずつ預ける児童が増えていくことを考えると、現在の受け皿では何ともならないということがこの運営方針の始まりです。3歳児から5歳児の話がありますが、0歳児から2歳児を預けられなければスタートできませんし、ニーズがどんどん高まってくるという認識でおりますので、そのようにさせていただきたいと考えております。

(神谷会長)

時間のほうも迫ってきました。この議論をまとめていただくのは難しいかと思いますが、勅使先生ご意見をお願いします。

(勅使先生)

まとまらないということが前提であります。安城市の全ての子どもに幸せになってもらうことが、この会議をつくった意味だと思います。

先ほどご指摘のあった私立の幼稚園の位置づけについては、以前からもご意見いただいていたことで

す。それぞれの園の建学の精神を大事にした上で、全ての子どもが同じように保育・教育を受けられ、いい体験をして小学校に入るべきであるということ、安城市はいつも意識していることです。教育委員会を含め、保育課において保育内容等について話し合う機会が開かれてきましたが、今回の問題を解決するには至っていないということが実際であります。

私立幼稚園連盟と安城市の両方が納得すれば、市民にも納得していただける結果に繋がると思いますが、その辺りについて愛知県私立幼稚園連盟安城支部代表の岩瀬委員、いかがでしょうか。

(岩瀬委員)

非常にありがたいお話、ありがとうございます。私は安城市さんと仲良くしたいと思っておりますが、なかなか一緒に意見を聞いていただくチャンスがありませんので、定期的にそのような会を開いていただければ嬉しいです。

また、公立幼稚園・保育園ができるという話は私立幼稚園には1番最後に入ってくるような状況です。うさぎ保育園が出来るということも全く知りませんでした。私たちが手を挙げるかは別として、安城市の子どもたちを保育・教育する立場としてお互いにどういうことができるかという話を早い段階で教えていただきたいと思っております。

私立、公立そして市役所が手を取り合い、分け隔てなくやることが、安城市の子どもたちや、市民の皆さんのためになることであり、税金の無駄をなくすことに繋がると思っております。例えば、最近できた保育園でも8億9億のお金を使っています。園児の数が少なくなったらどうするのか、将来高齢化のための施設に変わるんですかと3年ほど前に市川委員から質問があったと思っておりますが、そのときは考えてないとのことでした。そういうところに税金を使うくらいなら、既存の施設を使っただけならと思っております。

(勅使先生)

大事なことは親が私立・公立、幼稚園・保育園を選ぶことだと思います。

今日は、安城市としては、皆さんのご意見をお伺いしたということだけでよいのでしょうか。

(事務局)

今回は、0歳児から2歳児の受け皿を整備する中で、総合園をいくつか整備し、幼稚園については認定こども園化していきたいというご提案をさせていただきました。

先ほど子どもたちのためというお話がありましたように、1番不幸なことは、自分の地域の保育園に入りたくても入れないお子さんがいることであると思っております。

喫緊の課題ということで、4園の整備を進める予定でおります。この子ども・子育て会議は、我々が情報提供を行い、皆さんからご意見をいただく場であると認識しておりますので、今後につきましては、できればこの計画どおりに議会等で説明をしながら進めていきたいと思っております。

(勅使先生)

私立幼稚園連盟から出されていることはお聞き置きされるということでしょうか。

(事務局)

今回につきましては、3歳児から5歳児の定員は余ってくるのが予想されますので、その部分については公立の定員を削減することを考えております。3歳児から5歳児の定員の総数は子どもの人数に合わせ、調整幅は公立で考えておりますので、民間や・私立の幼稚園にはご負担をかけないということを思っております。

(勅使先生)

先ほどは負担との関係ではなく、子どもの人数や入園児童数など、様々な関わりの中で、問題が出てくるのではないかとというご発言があったかと思っております。

私立幼稚園と安城市が、お互いの意見を聞きながら試行錯誤した結果、私立幼稚園に負担をかけない、ということであれば皆が納得すると思っておりますが、何もしない今日はお聞きしましたというだけでは落ち

つきが悪いですが、岩瀬委員はどうでしょうか。

(岩瀬委員)

以前からもこのお話をさせていただいております、何度も同じことを言うことになってしまいます。

安城市に私立幼稚園の実態を知っていただいた上で、現在足りない0歳児から2歳児を充実していただきたい。3歳児から5歳児に関して総合園にする必要はないと思います。その部分を考えていただければと思ってお聞きしていましたが、0歳児から2歳児を充実させ、総合園はやめるということでよろしいわけですか。

(事務局)

そのようには思っておりません。市は1つの園でずっと過ごせるほうが良いと思っておりますが、保育園を希望して入った子が3歳になったとき、親が幼稚園を選択するかというところだと思います。そのニーズがあるならば、調整をする必要があると思います。

我々としては今のところ、保育ニーズが高まっていますので、総合園で2歳が終わった後、3歳児から5歳児の間も行ける総合園が望ましいということで判断をしています。

先ほど岩瀬委員がおっしゃった、私立幼稚園も含めた定員についてですが、今回示してありますように、0歳児から2歳児の足りない過不足の分は、中学校区ごとに推計をしております。私立幼稚園に通っている方は市外の方もいますし、バスで色々なところからお見えになることから、必ずしも学区が特定されるわけではないため、この中から外れています。先ほど勅使先生がおっしゃられたように、幼稚園の方から情報をいただかないと推計をできかねるということが、現状でございます。

行政区分が違うということについては、現状、私立幼稚園のデータを市が持ち合わせておりませんので、今後定員の増減を検討していくときには、その情報もいただきながら3歳児から5歳児の定員の調整を図る機会を持ちたいと思っております。

(岩瀬委員)

今回の件も相談していけば、何らかの形で数値が動くチャンスもあるということでしょうか。それとも、これはもう決まっているからこのまま進めるということでしょうか。

(事務局)

定員については毎年見直しがあり、この子ども・子育て会議の議題として取り上げるため、そこで調整をさせていただきたいと思っております。

(岩瀬委員)

子どもの数に合わせて比例して人数調整をするということですか。

増加という話は聞いておりましたが、減少という話はあまり聞いていませんでした。今までは人口増だったからですか。

(事務局)

保育ニーズは上がっていますので、申し込みがあった分は定員を増やしてなるべく入れてあげたいということもあり、増えているという現状でございます。もし申し込みがない状態になれば、当然定員を下げていく必要があります。

また、250人を超える大規模園がたくさんある中で、国からは保育の質として望ましくないとされており、解消していく必要があると考えております。

(神谷会長)

この議論については認識の違いがあるようですから、そこをすり合わせるために岩瀬委員と安城市で



お話しいただきいただきたいと思います。次回開催は7月と聞いておりますので、それまでに議論を整理していただきたいと思います。時間になりますので、今回の議論はこれで打ち切らせていただきます。事務局へお返しします。